

シロチドリ



平成27年9月15日発行

ご挨拶

皆様こんにちは。「在宅ネットあらお」運営委員会委員長の藤瀬と申します。本年2月7日に荒尾市在宅医療連携室「在宅ネットあらお」を開所しまして、半年が経過しました。平成27年度より運営委員会を母体として研修部会、相談対応部会、普及啓発部会、情報収集部会の4つの部会に分かれ、事業を運営しています。まだまだ在宅医療の理解と協力は得られておらず、地域にある医療・介護・福祉の多職種連携も十分ではありません。「在宅ネットあらお」が更に広く、多くの方々に浸透するために機関紙「シロチドリ」を定期発行する事になりました。多職種を対象とした事例検討会の内容や市民公開講座の予告等を載せる予定です。今回が初刊となります。今後ともご愛読よろしくお願いたします。

荒尾市医師会 会長 藤瀬 隆司

昨年度までの活動

平成25年度事業

在宅医療連携推進検討会議立上げ

- 10月11日 第1回在宅医療連携推進検討会議（以後月1回開催）
- 11月12日 宗像医師会視察
- 12月3日 臼杵市医師会視察
- 12月24日 医師会員に対し在宅医療連携アンケート実施
- 2月2日 在宅医療特別講演会 講師：訪問看護師 秋山 正子氏
- 3月 荒尾市民1000名対象に在宅医療アンケート実施



平成26年度事業

- 9月1日 相談員・事務員配置
- 10月21日 沖縄（浦添市）視察
- 10月29日 第1回在宅医療事例検討会（以後2ヵ月に1回開催）
- 11月 チラシ・ポスター・パンフレット作成・配布
- 12月11日 基本研修（動機づけ研修）開催
- 12月～1月 医療機関・各事業所情報集約
- 2月7日 荒尾市在宅医療連携室「在宅ネットあらお」開所式
- 3月 医療・介護・福祉ガイドブック荒尾、医療連携ノート、エコバッグ作成・配布



エコバッグ

在宅ネットあらお運営委員メンバー

在宅ネットあらおでは、多職種協働による在宅医療連携システムの構築を目指しています。今年度は以下のメンバーが運営委員として活動いたします。

機関	氏名	機関	氏名
荒尾市医師会	藤瀬 隆司	熊本県作業療法士会	藤木 昭彦
荒尾市医師会	佐藤 章	有明地域広域リハビリ支援センター	清田 香織
荒尾市医師会	中村 光成	熊本県地域拠点型認知症医療疾患センター	古林 美香
荒尾市歯科医師会	田中 みどり	訪問看護ステーション	光武 紀美子
荒尾市薬剤師会	瀬戸 可奈子	荒尾市社会福祉協議会	鶴 弘幸
荒尾市民病院	松山 美保	荒尾市地域包括支援センター	岩本 理歌子
介護支援専門員協会	小阪 勝己	荒尾市役所	片山 貴友
熊本県老人保健施設協会	前田 隆信	荒尾市役所	笠間 貴浩
熊本県老人福祉施設協議会	金和 浩介	荒尾市役所	奥村 猛
荒尾市老人介護支援センター	福島 喜久代	熊本県有明保健所	森田 学
荒尾市グループホーム連絡会	石原 陽一	熊本県有明保健所	前原 和子
医療ソーシャルワーカー協会	山下 崇	在宅ネットあらお事務局	荒木・青木・長岡

第5回事例検討会開催！

6月3日に荒尾市医師会館で開催された第5回事例検討会の記事が熊本県歯科医師会熊歯会報2015年7月号に掲載されました！

荒尾市歯科医師会

在宅医療における歯科の役割

—在宅医療事例検討会—



6月3日（水）午後7時より医師会館にて第5回在宅医療事例検討会が行われた。本会は昨年度発足した荒尾市在宅医療連携整備検討委員会（現在、在宅ネットあらお運営委員会）の主催で行われていたものを本年度より事例発表や報告出来る各団体や各職種の主催に変わり、トップバッターとして歯科医師会が担当することとなった。講師には田中みどり会員を推挙し「歯科訪問診療事例と口腔機能体感学習」という演題で約1時間講演して頂いた。まず、口腔機能体感学習として、参加者に配布したスナック菓子やお茶を使って、摂食・嚥下という機能を十分にさせずに行う事、寝たきり状態で行う事がいかに困難を要するかを疑似体験してもらった後、スライドを用い在宅医療における歯科の役割（咀嚼機能の回復、歯科衛生士による口腔ケアの必要性とその効果）および他職種からの患者情報を頂き始めて良質な歯科医療が提供できることを担当された5事例（症例）も呈示しながら熱弁をふるわれた。今回、参加したのが三師会関係だけではなく行政職員、ケアマネージャー、栄養士、言語聴覚士、施設職員、管理栄養士、精神健康福祉士という点からも在宅医療がいかに多（他）職種間で連携を密に取り、確立させなければならない事業かがわかる。



熊本県歯科医師会熊歯会報

2015年7月号より抜粋

田中みどり先生、田中文丸先生、ありがとうございました！

第6回事例検討会開催！

8月5日に荒尾市医師会館で第6回事例検討会が開催されました！

テーマ：がん患者さんの食事とケア（荒尾市民病院）

1. 食欲不振のケア
松山 美保（緩和ケア認定看護師）



2. 荒尾市民病院栄養科活動紹介と事例検討
上原 裕子（管理栄養士）

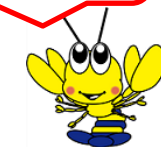


第6回 荒尾市在宅医療事例検討会実施報告

荒尾市民病院 管理栄養士 上原 裕子

平成27年8月5日（水）19時～20時、荒尾市医師会館 会議室にて、第6回 荒尾市在宅医療事例検討会が開催されました。当日は猛暑の中、参加者59名と多くの方に参加していただき、ありがとうございました。参加者の内訳ですが、年齢は20～70代、職種は医師、歯科医師、看護師、介護職、ケアマネージャー、栄養士、精神保健福祉士、薬剤師など、年齢も職種も幅広い参加となりました。今回のテーマは「がん患者さんの食事とケア」であり、座長を当院の濱口裕光緩和ケア内科医にして頂き、最初に、当院松山美保緩和ケア認定看護師より「食欲不振のケア」の話、次に私より「荒尾市民病院栄養科活動紹介と事例検討」の2演題の内容でした。松山緩和ケア認定看護師からは、食欲不振の原因・アセスメント、食事をする際の工夫13カ条などの講演でした。講演の最後に東口高志先生の「食べることで生きるとは同じことのように大切に思っている。最後に何を食べて死のうかと毎日考えていると言っても過言ではない」という言葉が紹介され、管理栄養士として、一人の人間として、とても考えさせられました。私の話は、他施設のスタッフの方へ、当院の食事の内容を紹介できる良い機会でしたので、最初に栄養科活動紹介として、当院の食事内容（食種・形態等）、使用している補助栄養食品の紹介、化学療法で食欲低下の患者様へ提供している「さわやか食」について説明しました。事例検討として、2例あげました。2例とも実際の患者様と関わった内容を紹介しながら進行。1例目は、好き嫌いが多く、用意しても食べたくないなど訴えが多い夫へ、何を食べさせたらよいか悩まれていた妻へのアドバイスを参加者の皆さんで検討しました。2例目は胃癌術後より食欲低下、痩せが進み、栄養失調での入院の方で、食事を食べてほしいが、量が多く入らない方へのアドバイスを皆さんで検討しました。この2例は、実際、私が悩みながら関わってきましたので、皆さんの意見がとても参考になりました。ありがとうございました。今回の事例検討会を通して、皆さんで検討し、その意見を聞くことにより、私だけではなく参加者皆さんも参考になったのではと思います。無事に終了することができ、一安心です。今回の皆さんの意見を参考に、今後の業務へ活かしていきたいと考えます。ありがとうございました。

市民病院の皆様、ありがとうございました！



荒尾市在宅医療連携室 在宅ネットあらお
荒尾市宮内1092-18（荒尾市医師会敷地内）
TEL:0968-57-9350 FAX:0968-57-9605
http://zaitaku.arao-med.or.jp
ホームページにも載せておりますのでご覧ください。